

国労

蘇我運輸区分会ニュース

ワンマン運転 本当に大丈夫か？

続々々

みんなの不安を乗せて？

乗ってきました！

前号で書いてきた通り、当区では自分たちが乗らないことで、今回の新型ワンマン車両に関する知識も情報も人から聞いた話以外ありませんでした。様々な点に関して「らしい」「じゃないの」といった憶測だけで、ずっとモヤモヤ感が続いていました。

そこで28日(日)の明けて、上総一ノ宮〜大原の1往復(9:23〜9:40・10:00〜10:18)ワンマン列車に乗ってきました。普段この区間の各駅停車は仕事でもそれ以外でも乗ることはなかったのですが、各駅で乗降が多かったのには驚きました。しかもこの日は日曜日で下りの10分前には当区持ちの臨時列車が走ったにも関わらずです。



上りは更に混雑が激しく、揺れると隣の人の肩がぶつかるほどで、ラッシュ

時の京葉線並みでした。今まで4両、6両で運行していたものが、急に2分の1、3分の1では当然と言えば当然です。「あんな混んでる電車はもう乗りたくない」と特に高齢者や身体の不自由な人は鉄道離れしていくのではと心配しました。

交通弱者は

乗るなつていいっか？

その心配に追い打ちをかけるのが、右下写真のドアボタンも含め、車両の内外の一切点字表記がないことです。健常者でさえ短期間で様々な不利益を被っているのに、これではサービス安全対策以前の話です。

更に上り場面で、終点の一ノ宮着後の上り列車の案内放送もなく、慣れない人は乗り換えも大変だろうと思います。

「自分が乗る電車くらい自分で調べろよ」「面倒な奴は無理して乗らなくていいよ」という会社側の本音が聞こえてきそうです。

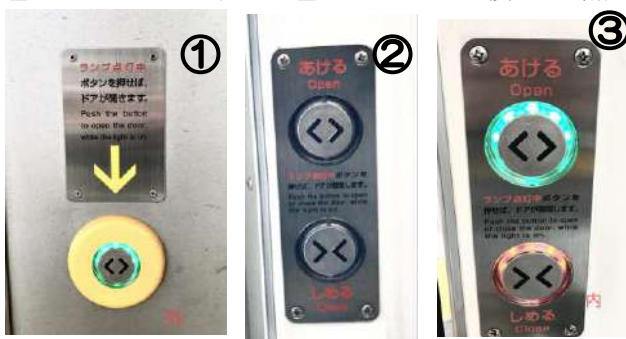
高齢者や身体の不自由な交通弱者にこそ合 わせるのが、公共交通の使命だと思えますが・・・

運転士は一時も

気をぬけない！

列車がホームに停車すると、車外カメラによる映像が運転室のモニターに映し出されます。運転士が「ドア開」の扱いをすると、右下写真① のようにランプが点き「ドア開」にするようランプが消えます②。ラン

交通弱者を守れ！



プが消えていると、ボタンを作動させることが出来ません。機動開始の速度5km/hでモニターは消えることと、その後何があっても運転士は気付きません。加えて車内の様子は一切分からないので、神経のたがらせ方は半端ではないでしょう。利用者や運転士の犠牲なしには成り立たない施策であることはもはや誰の目にも明らかです！

(続へ・・・かなあ・・・)

☆ 今まで車掌がやっていたことを運転士にやらせる・・・双方の仕事を甘く考えているとしか思えません！